

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1473400495
法人名	社会福祉法人愛光会
事業所名	グループホームみなみ
訪問調査日	平成29年8月7日
評価確定日	平成29年8月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 29 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473400495	事業の開始年月日	平成16年10月1日	
		指定年月日		
法人名	社会福祉法人愛光会			
事業所名	グループホームみなみ			
所在地	(2 4 6 - 0 0 2 6) 横浜市瀬谷区阿久和南3丁目26番地3			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成29年7月27日	評価結果 市町村受理日	平成29年9月14日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念、尊厳を大事にしています。窓も玄関も施錠はしませんので解放感があります。理美容も外に行く等して地域の触れ合いを楽しんでほしいと思っています。又、外食のメニューを自身で決めたり、食べ方にルールは作りませんなど、個人の意思弛張を大事にしています。外出レクは定例行事で春は横浜中華街、海老名にいちご摘み。夏は湘南。秋はみかん狩り、日帰り温泉です。他月も楽しい行事がたくさんあります。ホームの皆様は穏やかなお顔です、これが何よりと思っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Y ビル2F		
訪問調査日	平成29年8月7日	評価機関 評価決定日	平成29年8月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は、社会福祉法人愛光会の運営です。この法人は特養をはじめ、グループホーム6ヶ所、デイサービス、小規模多機能、サービス付き高齢者住宅等、横浜市を中心に幅広く福祉の事業を展開しています。「生きがいを持って生活を送れるよう、安全でお客様本位のサービスの提供を行う」を基本方針とし、「安全・安心・信頼」をモットーとしてケアに努めています。立地は、相鉄線「三ツ境駅」からバスに乗り、「山王塚」停留所から徒歩5分程、畑に囲まれた静かな環境の中にあります。近隣には法人の特養「みなみの苑」があり、消防訓練や行事の際などに連携を取り合っています。

●「安全で家庭的な環境で、入居者ひとりひとりが安心して穏やかな生活を送れるように援助します」をこの事業所の理念に掲げ、手を出しすぎず一歩下がって見守る介護を心がけています。接遇にも力を入れ、職員には研修の受講も勧めています。職員同士で話し合う機会も多く、管理者は自分の目と耳で判断し、スタッフ全員の問題として、良い所は伸ばし悪い所は皆で直していくことを提案しています。年間の外出レクは多く、横浜中華街・いちご狩り・みかん狩りなどは、毎年同じ所を利用して顔馴染みとなっており、利用者にとっても職員にとっても大きな楽しみになっています。

●地域との関係では、2,3名の利用者を除き全員がいずみの駅の理容院を利用し、買い物も近くの店に行く等、触れ合いを大切にしています。近隣の施設とは避難訓練で助け合い、農家の方からは野菜を頂いたりと交流があります。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム みなみ
ユニット名	輝

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関入口と1階事務所、2階スタッフルームに提示されています。職員は触れ合いの中で常に共有しています。	法人の理念「安心・安全・信頼」を事業所の入り口・事務所等に掲げ、業務の基本の考え方として日常的に職員の中に浸透しています。手を出しすぎず、一步下がって見守ることを大切にしています。今年目標として、一泊したいとの思いがあり、秋頃には実現したいと考えています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方と触れ合えるように理美容は車で15分位の所、買い物は歩いて行けます。途中ご近所の方と挨拶を交わされることもあります。家族会には近所の方も見えます。	自治会に加入し、お祭りには見学に行っています。事業所に腹話術や和太鼓等のボランティアが来訪した際には、散歩で顔見知りになった近隣の方をお招きしています。地域との触れ合いでは、男性の利用者の殆どが、職員がお連れして、いずみの駅の理容院へ行っています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所の方、通りすがりの方が説明の要望等があります。ホーム内を見学して頂き、お話しすることがあります。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事の反省、来月の予定、ケアプラザの予定の説明。又、認知、排泄、介護の関わり等をいろいろな角度から見たこと、経験を密に話し合うことが有ります。	2ヶ月に1回、包括支援センター職員・民生委員、家族、近隣の方、利用者、法人の施設長の参加で開催しています。事業所の近況報告や行事報告を行い、ケアプラザの予定をお聞きし、出来るだけ参加しています。話題も多く挙がり、話し合った意見は、サービスの向上に活かしています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	講習、研修に出席して、顔合わせやお話が聞けるように努力しています。	瀬谷区とは、認定調査や書類の提出等で職員との顔合わせや情報交換に努めています。研修の案内を頂いた際には、可能な限り参加出来るように努めています。瀬谷・三ツ境のグループホーム連絡会の会合にも参加し、他法人の事業所との交流の機会も設けています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は遅勤務者が帰った後から翌朝5時までです。日中は自由に庭に出ることが出来ます。居室窓もロックは掛けていませんので天気の良い日は開け放っています。	日中の玄関施錠は行わず、居室からも自由に庭へ出る事が出来るようになっていました。また、天気の良い日には窓を開け放つことで、閉鎖感を感じる事のない空間づくりを心がけています。現在、身体拘束に当たる利用者はおらず、外出願望のある方には、見守りで対応しています。スピーチロックに関しては、日頃からその都度注意し合っています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者に対して、言葉遣いなどに気を付け、職員通しで注意し合っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームに成年後見人の申請をされてる方がいるので事あるごとに実例で話し合うことが出来ます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明いたします。大事な事は時に細かく話します。又、疑問点は聞いて下さるように伝えています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「買い物に行きたい。電話を掛けたい」と要望されれば、天候などを思考し実行する。四季の衣類は家族に連絡、話し合い、持ってきて頂いたり、家族の要望があれば、本人と購入しに行く事もある。	年1回の家族会では、多くの家族の参加があります。太鼓を楽しみ、職員と利用者が日頃レクでやっていることを披露し、食事を楽しんでいます。「みなみ通信」を毎月発行し、外出先での様子、日頃の様子を伝えています。日用品の買い物では、家族と相談しながら、家族の意見を尊重して対応しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時にいろいろな意見がでます。管理者で返答が出来なければ上司に相談、よりよくなるようにしています。	毎日の申し送りが、ミニ会議になっており、ケアや業務に関して活発な意見が出るので、話し合っけてケアに活かしています。レクで外出する際には、本部からの応援を依頼し、休みの職員も含め全員が行けるように配慮しながら、利用者と一緒に楽しみを共有し、今後のケアに生かせる様にしています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各々の状況に合わせて、働きやすい様に配慮しています。職員のしたいこと、出来る事は積極的に取り入れています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会のパンフを把握して、職員一人一人に合わせた研修会や勉強会に参加できるように勤務時間を配慮します。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	瀬谷区連絡会、他施設の方と研修、勉強会で交流する機会があります。ご近所のお施設の方、お話しすることあります。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しかけられたら、最後まで耳を傾ける。顔を見て、こちらから声を掛けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の翌日は家族に電話で様子を伝え安心して頂く。不安事や要望にはいつでも受け居られるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族の要望を聞き、必要な支援を行う。又、利用者のペースに合わせ、無理強いせずに見守りする。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日、24時間、共に生活をしていると自然に家族と思えるようになる。その気持ちが大事だと思う。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	みなみ通信で日頃の様子を伝えています。面会時はゆっくりと家族で過ごせるように配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話も手紙も受け付けている。家族には知人や友人の面会を進めている。	クリスチャンの利用者に信者の方が来訪し、一緒にお祈りしたり、家族と一緒に教会に行っている方もいます。理美容は、訪問美容を利用せずに継続して外の理美容院を利用することで、社会性を継続出来るように支援しています。また、全員での外出支援では、中華街・みかん狩り・いちご狩りは毎年同じ所を利用することで、馴染みの関係が構築できています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の話で気まづくなったことが有ります。スタッフはさり気なく聞き、話題を方向転換させたりして、不穩の場にならないようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方は週2回の面会。完治され、ホームに戻れば戻って頂く。退去されてもお手紙を頂くお付きあり。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりにあった暮らし方や希望に添えるように話を聞き、穏やかに生活できる為の支援を行っている。	入居時のアセスメントで把握し、変わってきたこともお聞きして検討しています。家庭だったらやっていることを考慮するよう職員と話し合っています。出来る事はやって欲しいと、裁縫や掃除などを願っています。家族の了解のもと、晩酌をしている方もいます。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活の最低限の事を聞き、話のきっかけや生活習慣を今後の生活や支援の糧にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体操、レク、食事等の過ごし方を記録。心身状態の変化を申し送り確認、共有する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々、スタッフ間で話し合いながら、本人に合ったケアを提供できるように介護計画を考える。	3ヶ月に1回のモニタリングと、月1回のカンファレンスを行っていますが、日々の申し送りがモニタリングとカンファレンスに繋がっており、夜のトイレが頻繁な方には昼間の声掛けを増やすなど、現状に即した介護計画となるよう、考慮しています。	今後の継続	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録をしっかりと記入し申し送りを行うことで職員全体が情報を共有し、同じ行動が出来る。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	決められたプランであってもその時の状態の変化に応じて利用者、家族の要望に応えられるように努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ハーモニカやフラダンスの方は近くの方ですのでお互いに楽しみにしている。			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調不良時は近くですので直ぐに受診します。往診が月2回、訪問看護師は週一です。歯科、眼科は近くにあるので対応できます。遠方は家族対応で入所時に家族に伝えている。	契約時に従来のかかりつけ医の状況を確認し、希望に沿った対応を行っています。事業所の提携医のいずみ台病院とあおばクリニック(精神科)から、月2回の往診があり、いずみ台病院の居宅看護師が週1回、訪問があります。歯科・眼科は近くにあるので、必要のある方は送迎をしています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師はホームの介護記録, 健康記録とスタッフの話聞きながら利用者の対応をされる。又、情報を主治医に伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は家族共に医師の面談を受ける。食事時間に合わせて、職員が交代で面会に行き見守り、声掛けを行う。又、医師や看護師から様子や退院予定など聞く。病院と家族との連絡も行う。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ADLを見ながら、医師と話し合い家族に連絡。医師と家族、職員と往診時に何回も話し合いを持ち、終末期を迎える支援を行っている。	入居時に、事業所で出来る事・出来ない事の説明をしています。事業所での看取りを希望されている方については、医師・家族・職員と往診時に何回も話し合いを持ち、時期が来たら再度意思の確認をし、方針を決めています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は今、何をすべきか、誰に連絡するのかを考え、落ち着いた行動をとることを心掛けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者を伴って避難訓練を行い、非常口、消火器、救出方法などの確認を行っている。	年2回の避難訓練を実施、消火器や救出方法の確認を行い夜勤者対応も行っています。法人の「みなみの苑」で独自の訓練と自治会の訓練があり、職員が参加しています。近隣の施設とは協力体制を取る話し合いを持っています。また、瀬谷区の防災ネットワークにも参加し、防災意識を高めています。非常食は冷凍庫にストックがあります。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い等、気を付けてもいてもつい、間違っただい方になってしまう為、スタッフは、又は管理者に注意される。プライバシーはその場の空気を読んだ対応を心掛けている。	利用者が落ち着かなくなるので、大声は出さない、利用者の話をする時は、イニシャルで話すなど、日頃から気を付けています。職員の言葉遣い等問題があった時は、個人を責めず、共通の問題として話し合いを持っています。利用者には、その人その人に合った対応を心がけています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意志を尊重し、自身で決めて頂く。自己決定が出来るように声掛けしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員に合わせてもらうのではなく、利用者のペースに職員が合わせる対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立している方は定期的に外の理美容室に職員が付き添いで出かけられる。スタイルは自分で伝えるように声掛けの支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時期の物を食卓に並べ、季節感を感じてもらえるように工夫をしている。歯の無い方、弱い方もしっかり食べられるようにみじん切にしたり、少しはさみを入れたり、その人に合った、食事方法で見守り支援を行っている。	業者からレシピ付きで食材を調達し、アレンジは職員に任せています。近隣の農家から旬の野菜を購入したり、利用者と一緒に収穫した芋をメニューに取り入れることもあります。毎月、外食の機会を設け、利用者にメニューを決めてもらったり、週2回パンの日を設け、おやつにホットケーキ等も出して、食事が楽しめるようにしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は残すことのないように完食できる量とする。食が進まない場合は声かけ励まし、時間が掛っても見守りを行う。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自立の方には声掛け、歯ブラシに歯磨き粉を付けて手渡しする、洗面所まで誘導されて、ケアをされる方が居られる。場合によっては家族に許可を頂き、歯科受診等の支援を行う。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入所時から排泄の時間、Pパン、パットが必要かどうかの確認を行い、日中は必要なければ布パンに戻すとかその方に合った方法、自立に向けた対応を行っている。	入所時から排泄の時間、パット・布パン等が必要かどうかの確認し、時間で声掛け誘導することで昼間は布パンで過ごせるように支援しています。夜間も時間を見ながら声掛けし、トイレ誘導しています。失禁時や便秘時なども、職員同士で話し合いをし、朝の申し送りで次の対応を決めています。		今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の体操、廊下の歩行、水分補給、ヨーグルト等の乳製品を摂取して頂く。便秘の方は医師の指示で服薬対応を行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴希望の方も居られる等、一人ひとりに合わせて方法を行っている。嫌いな方も3日目には入って頂く。それ以上の方、5日以上の方は医師に助言して頂くなどの支援を行っている。	基本的には、週2回の入浴の支援をしています。1階に機械浴の設備はありますが、現在は使用しておらず職員で対応しています。夏場の外出時や失禁時などは、シャワーを使用しています。入浴拒否のある方には、診察等の理由を付けながら、納得していただきながら入浴に繋がっています。ゆず湯・菖蒲湯等も行っています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の体調、生活習慣に合わせて、食後の休息は声掛けして誘導する。夜間時に休めない方はリビングでテレビを見たりして過ごします。廊下をウロウロされる方は他利用者の妨げにならないように見守り、時には声掛けの支援を行う。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬処方を見ても見ること出来る。服薬の変更時は記録や申し送り伝える。利用者の変化、状態、副作用を職員間で把握し医師に連絡、指示を受け対応を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活習慣、嗜好を家族から聞き、日々の見守りから、好きな事、出来る事、出来ない事を見極めて張りのある生活が送れるように支援を行う。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候がよければ散歩や買い物、理美容などに出掛けます。	天候が良ければ散歩コースを歩いたり、建物の周りを自由に散策しています。近所の店に買い物にも出かけています。年間行事での外出は毎月のようにあり、季節に応じて花見やいちご狩り・みかん狩り・遠方の外食等を計画しています。日頃も希望に応じて食後に甘い物を食べに行ったりしています。		今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	不安にならないように入所時から少しの現金を持っている方もいます。買い物時に自身で支払われていますが家族にはなくなる事、どこにしまったか忘れてしまい、分からなくなった等の事を了解して頂いて、支援を行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話、子機電話使用は可能です。外からの電話も取り次ぎます。手紙は渡し、確認した後は居室に提示を行う。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用室は温度調節の為、空気の入替えを行い、快適に過ごせるようにします。季節感が分かるように時期の花、作品を提示、話の中からも伝わるように支援を行っている。	窓を開けて空気の入替えを行い、空気清浄器を置き環境に配慮しています。廊下は広く開放感があり、1階は居室から庭に、2階はベランダに自由に出入り出来るようにしています。毎朝カレンダーを読み、レクで季節の花の名前でしり取りをする等季節を感じています。壁には、利用者と一緒に作った作品や貼り絵、行事の写真を貼り、話題作りに役立てています。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の話でもめ事が起らないように見守り、時には話題の中に入り、盛り上げることもある。又、性格を把握して今、何を望んでいるか先読みの支援もある。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使い慣れたものを持って来られるように伝えていきます。居心地良く過ごせるように支援を行う。	居室にはベッド・カーテン・クローゼット・エアコン・照明が設置されており、本人や家族と相談しながら、仏壇・写真・椅子・縫いぐるみ・テレビ・洋服掛け等使い慣れた物、好みの物を持ち込んで頂き、居心地よく過ごせる様支援しています。掃除は、出来る方にはモップかけなどで手伝ってもらっています。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体が広く開放感があります。廊下も横にお話ししながら歩行可。トイレも車椅子対応が楽にできるので利用者が安心して過ごせます。			

目標達成計画

事業所

グループホームみなみ 輝

作成日

平成29年8月7日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
		個々の現状を見極め落ち着いた生活を望む	明るく落ち着いた生活	尊厳を大事にしながら、自由に生活をして頂きたい	随時

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	グループホームみなみ
ユニット名	虹

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように
	○ 2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングやその都度の申し送り、話し合いで理念の共有化に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会のゴミ拾いや避難訓練に利用者も参加する。回覧板は利用者と一緒に届ける。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の店舗に利用者と買い物に行く、理美容も外に行く事で地域の触れ合いを大事にしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、地域の方、ケアプラザの方、法人でその月にあった事、身の回りに起きたことを話題（介護）にして話します。皆さんのおかげで話が盛り上がります。又、参考になるので実践にもなります。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	研修や講習などで顔合わせぐらいです。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は遅勤務者の帰った後から翌朝までです。日中は利用者が事由に行動できるように見守りの支援を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ間で話し合っている。研修、ミーティング等で勉強を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人を受けている方がいるので取り決めや役割などを知ることが有るので勉強になる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際には十分な時間を持ち、丁寧に説明し、理解をして頂いています。後から疑問が生じた際にもその都度、納得して頂くまで説明いたします。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関の入口にご意見箱を設けて居りますが家族は職員に問い掛ける事があります。又、家族が訪問された時、みなみ通信で近況を報告しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時、ミーティング等でいろいろな意見が出ます。その都度、管理者に返答して頂きますが即答できなければ上司に相談、よりよくなるようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすくなるように個々の条件、他職員の条件等と考慮して働きやすいようにしています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に合わせた研修、講習等の勉強会や資格を修得することを進め、実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修、忘年会、納涼祭などで交流する機会があります。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活を丁寧にサポートし、お話を聞き、利用者が安心して生活が出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安事や要望を聞き、何時でも受け入れられるようにし、苦掛けしながら良い関係が出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族の要望を聞き、必要な支援を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	相手の立場を考え、話し合っで利用者にとって良い環境、関係づくりに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者は人生の先輩であると踏まえた上で権威を持って接しています。心身の平穩を妨げる事のないよう配慮し、了解を得て、手助けをします。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にされてきた馴染みの方にはいつでも来て頂けるようになっています。電話も対応できます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が離されている時の良い場面は見守り、険悪な場合は間に入るようにしています。孤独にならないように気配りをして、一人ひとりを大事にした支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方は顔を見に行ったりしています。家族とも定期的に連絡を取り合っています。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者が穏やかに過ごせるように職員、家族と連絡取り合い話し合う事に努力を行う。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、家族から今までの暮らし方を聞きながら、要望を含めて今後の生活がよりよく過ごせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に体操、レク、食事、行動を記録し、申し送りをして、心身状態の変化を確認して、見守りや声掛けをして現状把握に努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期のミーティングでカンファレンスを行い、家族の要望も受け入れ介護計画を作る。又、必要とあれば見直し、検討の話し合いを行う。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録をきちんと記入し申し送りを伝えることで利用者の変化やより良い対応を職員全体が同じように行動できる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状態の変化に応じて対応し、利用者、家族の要望に応えられよう支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ハーモニカの方は毎月、来られるので利用者も楽しみにしています。後はフラダンス、琉球太鼓などの方も見えます。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診が月2回、訪問看護は毎週です。それ以外、近辺であれば眼科、皮膚科の受診等の支援は行っています。提携病院の受診は体調不良時には直ぐに見て頂きます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週、訪問看護師の来疹あり、毎日のBT、体温、排便などの記録を見、職員に状態を聞き、医師と連絡を取られているので把握できるようにしっかり支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院医師は治療終了後は認知症が進まないように速やかに退院を進める。医師、看護師、相談員の方達と情報交換など良い関係にさせて頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には全ての事実を伝え、心の準備が出来るようにしています。提携病院、家族、ホーム間の情報共有が出来ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時について、定期的に訓練、申し送りで話し合っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者を伴って、年2回の消防訓練を行っている。非常口の施錠、救出方法などの話し合い又は研修の勉強会を開き防災対策を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや態度がぞんざいになることが有ります。職員同士で声掛け合い、難しい場合はミーティングで話し合いをし、時には管理者がその都度注意を行っている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思尊重し、利用者に決めて頂くので、どちらともつかない返答がありますが自己決定できるように声掛けや行動で働きかけの支援を行う。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	イベントは前もって天気予報や状況で予定を立てるがその日の利用者の体調や天候も考慮しながら希望に添えるように支援を行う。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理美容の訪問、自立されている方は職員付添いで外の理美容に行きます。季節の洋服の入れ替えや外出時はその時期に合った服装が出来るように行っている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の物や昔ながらの食材、糠床、梅干し、庭で採取したふきの当の天ぷらやきゅうらぶきなど楽しんで頂けるように工夫しています。お粥の方、その方に合った食事方法等も行っている。配膳やテーブル拭きは自立の方に声掛けします。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日分のカロリー計算ができています。食材を調達しています。毎食後に食事摂取量の記録、事ある時には医師や訪問看護師に見て頂き、利用者が健康で過ごせるように支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けで歯ブラシに歯磨き粉を付けて手渡しする方、洗面所まで誘導してケアを受ける方等々です。磨きのこしがあるかチェックし再度ケアを行う。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	記録を見ながら、その方に合ったタイミングで声掛けや誘導を行う。失禁の場合は他の方に気付かれないように声掛けで誘導します。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便に良い食物摂取、果物摂取して頂く。毎日の体操、散歩で体を動かすように支援。記録を見ながら早めの対応をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望を尊重して柔軟に対応しています。湯船が深いので体に合わせた入浴器具を使用しています。湯船から出たがらない方が何人かいますが無理に出すのではなくのぼせない程度に声掛けして納得の元で出て頂きます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の体調、生活習慣に合わせて食後の休息を声掛け誘導します。夜間、休めない方はリビングでテレビを見て過ごされます。廊下をウロウロされる方は他利用者の安眠を妨げないように見守りをします。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員はいつでも服薬処方を見ることはできます。服薬の変更時は記録や申し送りして、状態や変化について見守り、話し合い、経過を医師に伝え、指示を受ける等の支援を行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族から生活習慣、嗜好等を聞きながら、好きな事、出来る事は見守りを行い、出来ない事は一緒に無理しない程度に声掛けなどの支援を行う。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候がよければ散歩やこうえん、理美容などの外出に行きます。買い物の要望、ホームの買い物にお付き合いして頂く事もある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時からお金を持っている方もいます。家族に無くなることもあるかと伝え、了解の元で持っておられる。時には自身で支払いをすることもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望があれば、公衆電話や子機電話の使用をお手伝いします。手紙は手渡しで返事を書くように進めるなどの支援を行う。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝、利用者と一緒に掃除をする。玄関、廊下、リビング、トイレ、浴室が広いのでぶつかることもなく歩かれています。インテリアは季節に応じて利用者で作った飾り付けを提示します。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり自席、ソファなどに気の合った同士で座っていますがもめ事にならないように気配りはします。職員とゲームしたり、話される方もおります。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用されていたものを持って来られるように伝えます。家族の要望も聞きますが居心地良く過ごせるように支援を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や共同空間に安全に動けるように気を付けています。居室の分からない方には大きく名前を書いたり、目印を付けています。台所仕事、洗濯、掃除など出来る事をしながら、楽しく穏やかに過ごせるように支援を行う。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホームみなみ

作成日

平成29年8月7日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	5	今年は瀬谷区連絡に行かれなかった。(管理者の要望)	後半期には連絡会に出席したい。	人材が欲しい。	随時

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。